



Annual
Activity
Report

2013

2013年度 年次報告書



ひとり一人に未来をつくる力がある

認定NPO法人 テラ・ルネッサンス



ひとり一人に未来をつくる力がある

02 - 03	目次
04 - 05	スタッフ相関図
06 - 07	活動地域・活動内容
08 - 09	テラ・ルネッサンスについて
10 - 15	特集 ブルンジ事業の開始

16 - 21	国際協力事業 アジア
22 - 25	国際協力事業 アフリカ
26 - 29	東日本大震災における被災者支援 「ともつな基金」事業 日本
30 - 33	啓発・人材育成事業 日本
34 - 39	会計報告

テラ・ルネッサンスは、「レジリエンス」を大切にしています。

「レジリエンス」とは、困難な状況に直面しても、自らに内在する多様なチカラと周囲との関係性の中で、それを乗り越えていく適応能力のことです。

過酷な紛争の中で大きな傷を抱えていたとしても、それぞれ（個人やコミュニティ）には、コンクリートの地面を突き抜けて成長する新芽のように、しなやかで力強いチカラが内在していると考えています。

植物を育む水と太陽のような存在が、周囲にあれば、誰もがそのチカラを発揮することが可能だと考えています。

大切なことは、一人ひとり、そして、地域それぞれに多様な発展の道筋があるということです。

外から援助する側の役割は、その自然の成長（多様な発展プロセス）を自らが阻害していないかを常に自問しながら、対象とする国や地域、人びとに内在するチカラが発揮できるような土壌環境を整えていくことだと考えています。

スタッフ関連図・ご挨拶

「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」(設立目的)を追求するために、テラ・ルネッサンスのすべての活動があります。職員・インターンの献身的な働き。目的に共感してくださる支援者の皆さまのサポート。何より、自らのチカラで立ち上がろうとする受益者の皆さまの日々の取り組み。それらによって、テラ・ルネッサンスは、設立目的に向けて、確実な一歩を積み重ねていけるのです。2013年度も、テラ・ルネッサンスは世界各地で、たくさんの「一歩」を踏み出してきました。皆さまとともに踏み出した「一歩」の記録を、ぜひご覧ください。



創設者・理事 鬼丸昌也

カンボジア事務所



カンボジア事務所 所長
江角泰



プロジェクト・コーディネーター
クン・チャイ



建設担当
ブン・トゥン



会計担当
ヨート・イェト



ドライバー
ヴァン・ソツピア



裁縫技術指導員
サムリット・ラウ



事務所警備員
ホウト・ヒアト

コンゴ事務所



コンゴ事務所 所長
テオフィー・チシバンジ



ロジスティシャン
チルフラ・バヒンデウ



事業調整員
ナメガベ・ピチュラ



アフリカ事業コーディネーター
トシャ・マギー



ドライバー
マソング・チズング・ジョージ



事業調整員
マパタノ・ルワグマ

ウガンダ事務所

本部事務局 (京都)



理事長/
海外支援事業部長
小川真吾



管理部長
栗田佳典



財務・会計担当
中山麻衣子



総務・労務担当
牧野由起子



広報企画・デザイン担当
小田起世和

岩手事務所



大槌刺し子プロジェクト
マネージャー
内野恵美



東日本大震災復興支援事業
コーディネーター
吉野和也



岩手事務所 所長
鈴鹿達二郎



販売管理担当
佐々木静江



会計担当
黒澤かおり



生産管理担当
佐々木加奈子

インターンシップ(研修生) ※2014年6月現在



1. コンゴ民主共和国

- コンゴ(民)東部における元子ども兵及び紛争被害者支援プロジェクト



2. ウガンダ共和国

- ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト
- 不法小型武器問題の啓発プロジェクト



3. ブルンジ共和国

- ブルンジ共和国における紛争被害者に対するレジリエンス促進プロジェクト



テラ・ルネッサンスが取り組む課題



地雷

世界に6000万～7000万個もの地雷が現在も残されており、15,000人～20,000人が犠牲になっています。



小型武器

年間50万人が小型武器の犠牲となり、その約7割が女性と子どもたちです。また、子ども兵が増える原因の一つにもなっています。



子ども兵

18歳未満の子どもの兵士が世界に最低でも25万人(19ヶ国)存在すると言われています。その内の8ヶ国がアフリカに集中しています。

4. ラオス人民民主共和国

- ラオス不発弾撤去活動支援プロジェクト
- 不発弾汚染地域学校建設プロジェクト



Photo: 山田しん

5. カンボジア王国

- 地雷埋設地域村落開発プロジェクト
- 地雷埋設地域教育支援プロジェクト
- 地雷撤去支援プロジェクト



6. 日本

- 啓発活動(講演、ワークショップ、スタディーツアー、パネル展示など)
- 政策提言(武器貿易条約締結に向けたキャンペーン及び政策提言活動など)
- 東日本大震災復興支援活動(とつな基金/大槌復興刺し子プロジェクト)



Photo: t.koshiha

団体概要	
正式名称	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
理事長	小川真吾
設立年	2001年(法人格取得2005年、2014年認定NPO法人となる)
活動対象国	カンボジア王国、ラオス人民民主共和国、ウガンダ共和国、 コンゴ民主共和国、ブルンジ共和国、日本
海外・国内事務所	カンボジア事務所(カンボジア王国バタンバン州)、ウガンダ事務所(ウガンダ共和国グル市) コンゴ事務所(コンゴ民主共和国南キブ州)、本部事務局(京都)、岩手事務所
海外における 主な協力団体	<ul style="list-style-type: none"> ●ウガンダ Gulu Support the Organization(GUSCO)、Gulu NGO Forum ●ラオス MAG-Lao、UXO-Lao ●カンボジア Mine Advisory Group(MAG)、Cambodia Trust ●ブルンジ CEDAC

役員・体制 (2014年3月末日現在)	
理事	小川真吾、鬼丸昌也、中井隆栄、岡田多母、新居真衣
監事	鯉田勝紀(公認会計士・税理士/鯉田会計事務所)
顧問	小田全宏(特定非営利活動法人日本政策フロンティア理事長)
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ●本部事務局(京都) 有給専従職員 4名、インターン 13名 ●岩手事務所 有給専従職員 3名、有給非専従職員 3名 ●ウガンダ事務所 ローカルスタッフ 13名 ●カンボジア事務所 日本人有給職員 1名、ローカルスタッフ 7名 ●コンゴ事務所 ローカルスタッフ 6名
会員数	正会員 122名/個人賛助会員 278名/ジュニア賛助会員 12名/団体賛助会員 60団体/ ファンクラブ会員 601名 【合計延べ 1073名・団体】
加盟団体	(特活)関西NGO協議会 (特活)地雷廃絶日本キャンペーン 児童労働ネットワーク 日本小型武器行動ネットワーク (特活)国際協力NGOセンター(JANIC) ウガンダ小型武器行動ネットワーク 国際小型武器行動ネットワーク 世界子ども兵禁止連盟 京都NGO協議会 グルNGOフォーラム 京都経営品質協議会 素晴らしき経営研究会 (特活)遠野まごころネット

🌐 目的の世界 テラ・ルネッサンスの目的(ヴィジョン)

すべての生命が安心して生活できる社会(=世界平和)の実現

🌳 使命の樹 テラ・ルネッサンスの使命(ミッション)

当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活(簡素な生活)を実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する。

🌱 理念の土壌 テラ・ルネッサンスの活動理念

1. 私たちは一人ひとりに「未来をつくる力」があると信じ、市民の可能性を追求しています。
2. 私たちは内なる変化がすべての変化の始まりであり、変革の主体者は私自身であることを理解しています。そして、他人も変革の主体者であることを理解し、相手を尊敬しています。
3. 私たちはあらゆることは常に変化することを理解し、あきらめずに活動し続けています。



ひとり一人に未来をつくる力がある

テラ・ルネッサンスのすべての活動は、設立目的(ヴィジョン)を追求するために行われます。ヴィジョンを達成するために、責任を持って果たさなければならない任務が使命(ミッション)です。そして、すべての活動の指針となるのが、活動理念です。

2013年度 特集

ブルンジ事業開始

2013年度、ブルンジ共和国での活動を開始しました。同国では、1993年から続く紛争によって30万人の命が奪われました。また、紛争後も国民の大多数が一日1ドル以下の暮らしを余儀なくされており、1000人中、142人の子どもが5歳まで生きられない状況にあります。このような状況から、同国でも紛争被害の最も大きかった北部地域のひとつ、ムランビヤ県において元子ども兵や紛争被害者、最貧困層の自治と自立を促進するためのプロジェクトを開始することになりました。



右上：ジェノサイドで虐殺された人骨が保管されている教会敷地の地下倉庫（ルワンダ）
右下：ブルンジ共和国大統領とともに。左からトシャ・マギー、小川、大統領、鬼丸

世界中から忘れられたジェノサイド（大虐殺）

ブルンジは隣国のルワンダとともにベルギーの植民地下で、「ツチ人」と「フツ人」という、2つの民族対立があおられ、独立した後も両民族の間で対立が続いていました。1972年には、20万人が数ヶ月間のうちに殺害されるジェノサイド（大虐殺）が発生し、1988年にも5万人の民間人が虐殺されています。1993年から始まった紛争では30万人の命が奪われ、40万人のフツ人が難民として国外に逃れました。

しかし、隣国ルワンダのジェノサイドが世界中から注目を浴びる一方、その影で、ブルンジでの悲劇はほとんどメディアに取り上げられることなく、国際社会から忘れ去られていました。

また、内戦中、「最大1万4千人の子どもたちが戦っており、その多くがわずか12歳前後だった」

という報告もあり、多くの子ども兵が紛争に関わっていました。

援助に依存しない国づくりを目指して

ブルンジでの事前調査を通して感じたことは、「この国の人々が日本人とよく似ている」ということでした。非常に真面目で、素直、他者を思いやる心を持っていて、実直な人々という印象を受けました。なぜ、こんな人々があれほど残酷な紛争を経験しているのかが信じられないほどでした。一部、治安の悪化や様々な問題が指摘されているのも事実ですが、多くの国民は平和を望み、お互いが助け合いながら、国づくりに懸命に取り組んでいるという印象を強く受けました。同国のンクルンザ大統領の働きかけで、毎週土曜日には、「コミュニティ・ワーク」という取り組みを行っています。これは、毎週、「誰もが誰か、もしくは

地域のために無償で働く」というものです。これだけ貧しい国でこのような取り組みが機能すること自体が驚きですし、他のアフリカ諸国と比較すると、ブルンジの人々が相互扶助と自力更生を大切にしていることを痛感しました。

昨年、同大統領と直接、会って話をする機会がありました。その時にも彼の語り口から「単にアフリカ人を援助機関に依存させるような国づくりをするつもりはない」という姿勢が伺えました。同時に、これまでの欧米諸国への依存を高めるような援助ではなく、相手国（ブルンジ人）のオーナーシップを尊重するという日本独自の援助に対する期待を感じました。

ブルンジの人々の可能性を信じて

4年前から事前調査などに協力してくれていたパートナー団体（CEDAC）と協力して、人々の自

立と自治を促進するための事業を開始することになりました。CEDAC代表のエリック氏は、自身も元子ども兵であり、現在のNGOを立ち上げてから同じ境遇の元子ども兵の自立支援に力を入れてきました。「明確なビジョンを持つこと、一人ひとりが持つ力や可能性を最大限に活かすこと」が彼のモットーで、テラ・ルネッサンスの理念と共鳴したことが協働をすることになった大きな理由です。

事前調査から「ブルンジの人々の可能性とチカラを信じて、一人ひとりが自らの力で収入を得て、自立していけるようなプロジェクト」が必要だと考え、今年度は、紛争被害の最も激しく、現在も孤児や元子ども兵、最貧困層が多く暮らすムランビヤ県で自立支援のための施設を建設してもらい、無償で労働力を提供してくれた人たちも



上：自立支援のための施設建設に自発的に関わる現地の人たち

います。その作業員の多くが、「この施設建設は、私たちの未来を作るために大切なものであり、未来への投資である」という力強いコメントをしてくれました。

まだまだ、多くの問題を抱えており、援助する側から提供すべきことは多々あるのも事実ですが、同時に、彼ら自身が持っている可能性を最大限に活かした事業を展開していきたいと考えています。

緊急支援を実施しました

同施設の建設を行っている最中、2014年2月にブルンジで大規模な洪水災害が発生しました。これにより、3800戸の家屋が倒壊し、約1万2千人もの人々が住む家を追われ避難を余儀なくされました。

最も被害の激しかった首都ブジュンブラ北部のキナマ行政区では601戸の家屋が破壊され、そのうち308戸は全壊し、1010世帯、5555名の方が被災しました。同地区に設置された避難民キャンプでは、乳幼児を含む多数の人々が劣悪な環境下で避難生活を強いられ、安全な水や食料の不足に加え、衛生状況を改善するための物資が不足して

いる状況にありました。

このような状況を鑑みて、テラ・ルネッサンスでは、CEDACと協力して、キナマ地区に設置されたキャンプ（67棟のテント）で暮らす避難民1000名以上を対象に、石けん4824個と各テントに洗剤パック（2か月分）の緊急支援物資を供与しました。

事業開始までの道のり

2000年代に入り、ブルンジでも和平交渉が進み、2009年になって、ようやく反政府軍の武装解除が進み、治安も回復に向かい始めました。そして、テラ・ルネッサンスでは、2010年にブルンジで事業を開始する準備を始めていました。

しかし、翌年、東日本大震災が発生し、日本での被災者支援に注力するために、ブルンジ事業は延期することになりました。

当時、テラ・ルネッサンスでは、国内の災害支援をする予定はありませんでしたが、そのきっかけとなったのは、奇しくもそのブルンジのジェノサイドで家族を失い、当時、ウガンダ事務所で勤務していた現地職員（トシャ・マギー）からの一本の電話でした。



一本の電話 — 3年前の約束を果たすために —

ブルンジ事業を開始する直前の2011年3月、東日本大震災が発生しました。当初、私たちは国内での災害支援の経験もなく、人的、資金的にも全く余裕がなく、東北での支援活動をする予定はありませんでした。

そんな時、ブルンジ出身でウガンダの元子ども兵支援に従事していた現地職員トシャ・マギーから一本の電話がありました。（写真の右側）

彼女は、「津波が町を飲み込んでいる映像をニュースで見た。あんな心の優しい日本人が、遠く離れたアフリカの元子ども兵たちを支えてくれている日本の人たちが、つらい思いをしているなんて信じられない。だから、ウガンダ事務所の職員や支援プロジェクトを卒業していった元子ども兵たちと話し合った。そして、今まで日本の人たちに助けてもらった恩返しをすると決めた」。

そう言って、彼女は、5万円を集め、「このおカネで毛布を買ってください。きっと、東北は寒いはずだから」と申し出てきました。5万円というお金はウガンダでは公務員の月給の8倍以上にもなる額です。

そして、彼女に言われました。「テラ・ルネッサンスの本部はどんな支援をするの?」と。その話を聞いて、私と小川（理事長）は、ブルンジ事業開始を延期してでも、東日本の復興支援に注力しようと決断しました。

あれから、3年が経ち、少しずつ東北での活動も安定しつつあります。そして、今、3年前に果たせなかったブルンジの人々との約束を果たしたいと考えています。ブルンジでは、未だに仕事もなく、子どもに必要な衣食住さえ十分に与えることのできない人々が多数います。

一人でも多くの命が安心して生活できることを願って、今年度、私たちはブルンジでの事業を開始することになりました。

鬼丸昌也

アフリカから日本の人たちに 伝えたいこと

かつて、私たちの村は平和でした。
人と自然、人と人はつながっていました。
過去と未来もつながっていました。

その「つながり」はいつの間にか消え去ってしまいました。
すべての始まりは、西洋人がこの村にやって来た頃でした。
西洋人は私たちのことを「野蛮人」と呼び、
西洋人は私たちに「文明」を与えてくれました。
私たちは私たちを「劣っている」と思い始めました。

私たちは、西洋人の「教え」を学び、
人が自然を、人が人を支配できると
思うようになりました。

未来の世代より、
今の世代の幸せを考えるようになりました。

「お金」があれば幸せになれると思い、
「お金」のために働き、
「お金」のために森を切り、
「お金」のために大地を削り、
鉱石を掘り出しました。

「お金」は一部の村人を豊かにしました。
その村人は新しい村長になりました。

新しい村長は、西洋人の衣服をまとい、
西洋人の宗教を信じ、西洋人の言葉を話し、
西洋人の法律を守り、西洋人の武器を持ち、
西洋人のやり方で村を治めました。
反抗した村人たちは殺されました。
武器を手に反抗した村人もいました。
その武器も、西洋人から渡されたものでした。

そして、私たちの村で戦争が始まりました。



西洋人たちは言いました。
私たちは民族が「違う」から戦っているのだと。
私たちには平和を作る「力」がないから、
それを教えてやるのだと。

どうして、その当たり前のことを
忘れてしまったのでしょうか？
かつて、私たちの村では「違う」民族が
平和に共存していたことを。

「違うこと」は、「争いの種」ではなく、
「喜びの種」であったということ。

わたしたちには、「力」があることを。
ずっと昔から平和に生きてきた知恵があることを。
ずっと昔から自然の一部として人間が生きてきたことを。

切り離せないものを切り離そうとし、
同じにできないものを
同じにしようとする人たちがいます。

アフリカの大地で生まれ、
東の果てに歩いていった日本の人々へ。
あなたがたの知恵が、今、必要とされています。
あなたがたの行動を、今、未来の世代が必要としています。

「ひとり一人に未来をつくる力がある」と信じて、
これからもテラ・ルネッサンスと共に
歩いていって頂けることを心より願っています。

9年間、テラ・ルネッサンスの職員として働いてきて、日本の人たちの知恵に感銘を受けました。また、東日本大震災後、希望を失わず生きる岩手の人たちからたくさんの希望をもらいました。そんな、日本の人たちに読んでいただきたいと思い、このメッセージ(ポエム)を書きました。

アフリカ事業コーディネーター トシャ・マギー





国際協力事業 アジア (累計)

2,683人

カンボジア事業では、地雷埋設地域において貧困層 1,336 人に村落開発支援を実施、小学校建設により 630 名の子どもたちが小学校に通えるようになりました。また、ラオス事業では、不発弾撤去後の水道建設により約 60 家族が衛生的な水を使えるようになり、350 名の子どもたちが中学校に通えるようになりました。

アジアでは、カンボジアでの地雷問題とラオスでの不発弾問題に取り組んできました。

カンボジアでは、1979 年から 2014 年 3 月までに 64,374 名の地雷 & 不発弾被害者が記録されています。テラ・ルネッサンスでは、最も地雷被害の多いバタンバン州のタイ国境地域で、地雷撤去とともに地雷埋設地域に住む貧困層の支援を実施してきました。昨年は、カムリエン郡の 3 村で村落開発支援を実施し、収入向上支援、社会保障

制度支援、基礎教育支援の 3 つの活動を通して、村人たちの自立と自治を支援し、地雷埋設地域で建設した小学校の教育支援を実施しました。

また、ラオスのシエンクアン県では、クラスター爆弾に関する現地取材を撤去団体や被害者へ実施し、啓発用漫画冊子を作成しました。また、カム郡パハーン村での水道建設用地の不発弾撤去費をラオス政府の不発弾撤去団体 UXO-Lao へ提供し、その後水道を建設しました。

内なる変化がすべての変化の始まり

カンボジア事務所では 2013 年を通して事務所の前の通りのゴミ拾いをしてきました。最初は“人の家の前のゴミまで拾う必要がない”と渋っていた現地スタッフたちも、とうとう 1 年以上毎日続けました。すると事務所の前の通りがきれいになり、現地スタッフの方から“今度は村落開発支援を実施している村の小学校でも、子どもたちと一緒にゴミを拾おうと思う”と言ってくれたのです。それまでも小学校の先生たちにゴミを管理するように再三伝えていましたが、それを伝える現地スタッフたちがポイ捨てをしていたのです。しかし、現地スタッフたちが率先して小学校の先生と子どもたちとゴミ拾いをし、学校の環境がきれいになると、今度は先生たちが変化してきました。それまで授業もたまにしか実施されず、ゴミも散乱していた学校で、きちんと授業が実施されるようになり、そして散乱していたゴミもきちんと捨てられるようになったのです。すべての変化はまず自分から始めることの大切さを、カンボジア事務所のスタッフたちは実感した年でした。



▶ 一年間の事業を振り返って

2013 年度のカンボジア事業は、基礎教育支援での多くの成果がありました。村落開発支援を実施する 3 村の小学校や、本会が建設した 3 校の小学校での図書室や貯水タンクの建設など学習環境が整備されつつあります。それに伴い授業があまりされていなかったような学校でも、先生たちの意識が変化し、授業が実施されるようになるだけでなく、それまで散らかっていたゴミが管理される等の変化も見えてきている学校があります。各家庭の状況は、昨年の大洪水の影響もあり、厳しい村人たちも多いですが、裁縫技術訓練や家庭野菜栽培などを始めているところです。それぞれの現地スタッフたちも、毎朝事務所の前の通りのゴミ拾いを通して、周囲から向けられる目も変わり、小さなことでも他人を幸せにすることを自分から始めれば、良循環を作り出せることを実感しているところです。



カンボジア事務所
プロジェクト・コーディネーター
クン・チャイ

1 カンボジア地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト

事業の目的	地雷埋設地域の貧困削減をし、地雷被害者や、元子ども兵、小型武器の被害者を含む戦争被害者が、自立して生活できるようにサポートをするとともに、新たな地雷 & 不発弾事故を防止する。		
事業地域	カンボジア王国バタンバン州	受益者数(累計)	約400家族
受益者カテゴリー	地雷埋設地域に住む貧困層の村人、地雷被害者、障害者	事業実施期間	2006年10月～継続中

プロジェクト成果

収入向上支援として、プレア・プット村で2013年9月まで6名の最貧困層の女性へ洋裁とクメール伝統衣装製作技術訓練を実施しました。2013年10月よりロカブス村でクメール伝統衣装製作技術訓練を7名の貧困層の村人へ実施しています。また、それぞれの村に1基ずつ井戸を建設しています。社会保障制度支援活動として、2013年までに3村の村で合計33名の村人たちに保険が適用され、貧困層の生活が守られています。基礎教育支援として、ロカブス村小学校とプレア・プット村小学校へ貯水タンクを設置し、トイレを使用できるようになりました。またセラミック製水濾過器を各教室に提供したロカブス村では、子どもたちが安心して飲み水を飲むことができるようになっています。

2 カンボジア地雷撤去支援プロジェクト

事業の目的	カンボジア北西部地域において、地雷 & 不発弾による2012年までに「犠牲者ゼロ (Zero Victim)」、2015年までに「汚染影響ゼロ (Impact Free)」を目指し、貧困地域の開発支援へとつなげる。		
事業地域	カンボジア王国北西部地域	受益者数(累計)	—
受益者カテゴリー	地雷原と地雷原周辺に住む村人	事業実施期間	2001年～継続中

プロジェクト成果

提携する地雷撤去団体MAGの掘削機“タント”チームの活動費を提供し、2013年9月までにこの機械の活動により163,471㎡の地雷撤去作業が迅速に、効率的に実施され、146個の対人地雷、2個の対戦車地雷、1発の不発弾が撤去されています。

写真：バタンバン州の地雷原で地雷除去活動をする掘削機タント



3 カンボジア地雷埋設地域教育支援プロジェクト

事業の目的	カンボジア北西部地雷埋設地域における教育環境の整備と就学適齢児童への初等教育の機会の提供／カンボジア北西部地雷埋設地域の識字率の向上と貧困削減		
事業地域	カンボジア王国北西部地域	受益者数(累計)	約650人
受益者カテゴリー	地雷原と地雷原周辺に住む小学生	事業実施期間	2008年～継続中

プロジェクト成果

ブオ・ソクリアチ村小学校 ▶引き続き幼稚園クラス2名と図書室司書1名への給与を提供し、約200名の子どもたちが小学校で勉強できるようになっています。また学校は、非常によく管理され、教育の質は大きく向上しています。穂高小学校 ▶図書室と貯水タンクを設置し、トイレが乾季でも使えるようになるとともに、水濾過器を通すことで飲み水としても利用できるようになっています。オウ・チェット・プラム村小学校 ▶貯水タンクを設置し、トイレが乾季でも使用できるようになっています。

写真：設置した図書室で熱心に本を読む穂高小学校の小学生たち



4 ラオス不発弾撤去支援プロジェクト

事業の目的	ラオス北東部シエンクアン県における不発弾事故を防ぎ、人びとが安心して生活できる環境を創造する。		
事業地域	ラオス人民民主共和国シエンクアン県	受益者数(累計)	60家族(パハーン村)、約400名(ノンヘット郡中学校建設)
受益者カテゴリー	不発弾汚染地域に住む人びと、不発弾被害者	事業実施期間	2008年～継続中

プロジェクト成果

ラオス、シエンクアン県ではカム郡パハーン村で水道建設用地の不発弾撤去費を不発弾撤去団体UXO-Laoへ提供し、不発弾撤去を実施するとともに水道建設を実施し、少数民族モン族の村人約60家族が衛生的な水を村で使えるようになりました。

写真：完成した水道の前で村人や保健局、外務局のスタッフと一緒に撮影





国際協力事業 アフリカ (累計)

2,825人

ウガンダでは、これまで168名の元子ども兵、及びその家族を含む紛争被害者、計1078名への支援を行ってきました。コンゴ(民)では元子ども兵や孤児、性的暴力の被害を受けた女性、最貧困層、計711名への支援活動を実施しています。また、今年度、新規にブルンジ共和国にて1036名を対象にした支援活動を行うことができました。

今年度、ウガンダ北部では、子ども時代に反政府軍に誘拐され、兵士として駆り出されてきた元子ども兵19名(第7期生)への職業訓練や基礎教育、心理社会支援(カウンセリングなど)を行いました。また、その間、本人と受け入れ家族の食費や医療費などの衣食住を支援しました。

コンゴ東部では、紛争下で暮らす元子ども兵や孤児、性的暴力を受けた女性たちが衣食住を満たすことをめざして、自給食料を生産するための支

援や職業訓練などの活動を行いました。

ブルンジでは、紛争の影響を最も受けた地域のひとつであるムランビヤ県で、元子ども兵や紛争被害者、最貧困層らの自立を促進するための施設建設を開始しました。また、洪水被害により被災した1000名以上の国内避難民キャンプ滞在者に対して、衛生環境を改善するための支援物資を配布しました。

一人ひとりに寄り添った支援を心がける

一口にウガンダ北部の元子ども兵といっても、それぞれの抱える課題や状況は様々です。10人いれば10通りの社会復帰の支援が必要だと考え、可能な限り一人ひとりに寄り添った支援を心がけてきました。特に職業訓練後の自立(実際に収入を安定させる)までのプロセスでは、対象者一人ひとりの資源(強みや可能性)を活かしながら個別対応を重視しました。昨年、訓練を終えた元子ども兵20名(第6期生)の中には、個人で洋裁店を開くことを希望する元少女兵もいれば、グループで木工所を運営することを希望する元少年兵たちもいました。また、それぞれの家庭事情も様々な状況でしたが、それぞれの主体性を尊重し、家庭訪問や職場訪問を繰り返し、それぞれにあった支援(小規模融資や資機材の供与、ビジネスのアドバイス)をきめ細かく行いました。その結果、現在、全員が自らの力で収入を得て、衣食住を満たすことができるようになっています。



上: 社会復帰するために必要な能力習得に励む元子ども兵たち

下: 自らの力で収入を得るために木工大工の職業訓練に励む元子ども兵(ウガンダ)

▶ 一年間の事業を振り返って

コンゴ東部では、長年、武装グループ(FDLR)による襲撃が続いていますが、一昨年からそれに抵抗する地元住民らが結成した武装グループ(ライア・ムトンボキ)が、元子ども兵や若者の徴兵を繰り返しています。同じ地域住民なので、強制的に徴兵されることはほとんどありませんが、多くの若者が「何もやることがない」ことを理由にライア・ムトンボキに入隊しています。テラ・ルネッサンスの支援を受けた元子ども兵も10名以上が何度も勧誘を受けています。

しかし、誰一人、軍隊には加わっていません。その理由は、彼らには仕事があるからです。木工大工や溶接技術を身につけた彼らには日々の仕事があり、彼らの多くが今では、養うべき家族を持っています。徴兵を拒否した彼らは、口をそろえて、「仕事をして、家族とともに過ごすという生きがいがあるので、武装グループに戻るなどという選択肢はない」と言います。

単に子どもの徴兵を法律で禁じるだけでなく、若者が働いて生活できる環境を整えることが、元子ども兵の再徴兵を予防する上で、とても重要なことだと感じています。



コンゴ事務所 所長

テオフィー・チシバンジ

1 ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト

事業の目的	元子ども兵が社会復帰するために必要な能力を身につけ、経済的に自立するとともに地域住民との関係を改善しながらコミュニティで安心して暮らせるようになる。		
事業地域	ウガンダ共和国、グル県、アムル県、キトグム県、パデー県	受益者数(累計)	1078名(内、元子ども兵は168名)
受益者カテゴリー	元子ども兵及び最貧困層住民	事業実施期間	2005年5月～継続中

プロジェクト成果

2013年1月に職業訓練などの社会復帰訓練を終えて、習得した知識と技術を使って収入を得始めた元子ども兵20名(第6期生)へマイクロクレジット(小規模融資)の支援や、小規模ビジネスの運用についての助言を行いました。結果、まだ収入が不安定な元子ども兵もいますが、平均すると約7000円程度の月収を得ることができています。また、ほとんどが近隣住民との相互扶助(助け合い)の活動にも参加し、地域住民との関係性を改善しつつあります。

加えて、今年度、新規に19名の元子ども兵(第7期生)を受け入れ、木工大工や洋裁、服飾デザイン、手工芸の職業訓練や基礎教育(算数、英語、識字教育)、また、カウンセリングや平和教育を行いました。訓練開始から一年近くが経ち、全員が精神的にも落ち着き、それぞれ職業技術を身につけ、将来の計画を具体的に考えることができるようになっています。

上：洋裁訓練を受ける元子ども兵たち(ウガンダ)

下：服飾デザインの職業訓練で機材の使い方を学ぶ元子ども兵たち(ウガンダ)



2 不法小型武器問題啓発プロジェクト

事業の目的	不法小型武器の蔓延がコミュニティに悪影響を与えることを一般住民に啓発すること。		
事業地域	ウガンダ共和国、カンバラ市	受益者数(累計)	—
受益者カテゴリー	一般市民	事業実施期間	2005年2月～継続中

プロジェクト成果

ウガンダの市民社会組織(ウガンダ小型武器行動ネットワーク)が中心となり、不法小型武器の問題を一般市民へ啓発するための活動(セミナーの開催)を支援することができました。

3 ブルンジにおける元子ども兵及び紛争被害者自立支援センター住民参加型建設プロジェクト

事業の目的	元子ども兵及び紛争被害者の自立を促進する拠点となる施設が建設されるとともに、コミュニティ内での和解と信頼構築が促進される。		
事業地域	ブルンジ共和国ムランビヤ県 キガンダ郡キガンダ準郡、カネグワ村	受益者数(累計)	36名
受益者カテゴリー	元子ども兵(元兵士を含む)、 孤児、最貧困層住民	事業実施期間	2013年10月～2014年5月

プロジェクト成果

元子ども兵や紛争被害を受けた人々の自立を促進するための施設建設が開始され、2014年3月末時点で屋根工事までが完成しました。建設作業には、同地の紛争被害者たちが自身が参加しています。

写真：屋根まで出来あがった施設の様子。(ブルンジ)



4 ブルンジ共和国洪水被害者に対する緊急支援活動

事業の目的	洪水被害を受けた被災者が人間としての基本的ニーズを満たすこと。		
事業地域	ブルンジ共和国ブジュンブラ市北部	受益者数(累計)	1000名以上
受益者カテゴリー	洪水被害を受けた被災者	事業実施期間	2014年2月～5月

プロジェクト成果

ブルンジで2014年2月に発生した大規模な洪水災害(被災者約2万人、家屋倒壊3800戸)により住居を失い、国内避難民キャンプに滞在する1000名以上に対して、緊急支援物資(石けん4824個と約2か月分の洗剤パック)を届けることができました。

写真：洪水被害を受けた被災者が避難するキャンプ(キナマ地区)で物資配布の調整をする当会理事長と現地援助機関の職員(ブルンジ)



5 コンゴ東部地域における元子ども兵及び紛争被害者エンパワメントプロジェクトフェーズII

事業の目的	元子ども兵及び紛争被害者がエンパワメントされ、BHN（人間としての基本的なニーズ）を満たして生活できるようになる。		
事業地域	コンゴ民主共和国、南キブ州、カレヘ行政区、カロンゲ区域	事業実施期間	2009年6月～継続中
受益者数(累計)	直接受益者:711名 間接受益者:直接受益者の家族及び近隣の貧困層住民 約2000名		
受益者カテゴリー	元子ども兵/紛争被害者（性的暴力の被害女性、孤児、最貧困層住民）		



左：洋裁の職業訓練中に作成した衣服を手にする受益者たち（コンゴ）

右：紛争下で、お互いが協力しながら自給食料の生産に励む受益者たち（コンゴ）

プロジェクト成果

コンゴ東部では、対象地域の12カ村に相互扶助（助け合い）グループを組織し、農業指導、養殖の指導、一時的な食料や種子の配布を行うとともに、グループのメンバー同士が協力して自給食料を安定的に確保することをめざして活動を行いました。

今年は、治安悪化により3カ村の住民が避難を余儀なくされましたが、他のグループが住居を提供（多くは同居）するなどして支えました。また、グループ内で妊娠や病気により十分な食料生産ができなかった個人をグループ全体で支援することで、最終的に全員が自給食料を確保することができました。同事業を開始した2009年当初は、自分のことで精一杯で他を支えることに消極的な意見もありましたが、今では、他を支えた個人やグループの多くが困難な状況にある人を支えることが『自らの誇りである』と言います。

相互扶助の仕組み（ネットワーク）を強化することで自給食料を確保するという取り組みは、単にセーフティネットを構築するというだけではなく、紛争によって何もかも破壊された地域住民が人間としての誇りを取り戻すことにつながっていると感じています。

また、性的暴力の被害を受けた女性26名に対して、洋裁の職業訓練を9か月間行いました。授業の合間にカウンセリングなどを行いながらミシンの扱い方から、洋服、アフリカンドレスの作り方などを指導し、全員が洋裁技術を身につけることができました。

■ アフリカの紛争をなくすためにできること -レアメタルのリサイクル-

レアメタル（希少金属）は、その名の通り、世界的に「希少」な鉱物で、産出される国や地域も一部に偏っている上に、先進国での需要はますます高まっています。世界の産出量の75%（2010年）が南アフリカ共和国に集中しているプラチナは、日本の自動車産業にとっては欠かせないレアメタルですし、コンゴで産出されているスズやタンタルは、携帯電話やノートパソコンなどの電子部品に不可欠な鉱物資源です。また、世界の埋蔵量の約47%がコンゴに集中しているコバルトは軍事産業にとって重要なレアメタルで、軍事大国アメリカでは、30年以上も前から「コバルト資源は“戦略鉱物”の筆頭に挙げられる」とまでいわれています。

必要な資源を海外からの輸入に頼らざるを得ない以上、私たちは、その資源がどこから来て、産出国の人びとにどのような影響を与えているのかを考えなければいけません。

そして、こうした紛争を助長するような鉱物資源を輸入しないように、私たち市民が声を上げることで、企業の行動に変化を与えることも可能です。実際、コンゴ産のタンタルを購入して携帯電話の部品を作っていた、フィンランドの「ノキア社」は、市民やNGOなどからの指摘を受けて、コンゴ産タンタルの購入を止めました。ベルギーの鉱物資源商社「トラキシー社」もタンタルとスズをコンゴ東部から買うことを中止しました。

また、イギリスの「AMC社」は、コンゴ東部の南北キブ州からもっとも大量のスズを購入していた非鉄精錬企業ですが、2009年にコンゴ産スズを買わないと発表しました。その理由として、「コンゴのスズは武装勢力の資金源になっており、さらなる紛争を引き起こす可能性がある」と説明しましたが、この発表は、市民団体やメディアからの国際的な批判にさらされたことでした。

しかし、残念ながら、資源がどこで生産され、どこを経由して、最終的に製造業者（企業）または、消費者のもとに届くかを調べることは、それほど簡単なことではありません。実際には、産出から販売までの過程で、さまざまな原産地の資源が混ざって、どれが紛争鉱物なのかそうでないのかの区別がつかない状態になってしまうこともあり得ます。

そうである以上、既に日本に流入したこれらの鉱物資源をできるだけ、大切に扱っていく視点が必要です。希少な鉱物資源で、私たちにとって不可欠な資源であればあるほど、それを何度も利用していく知恵と技術、そして、「モットイナイ」の心がけが大切だということです。

今、日本には「都市鉱山」と呼ばれるほど、大量の金やレアメタルなど貴重な鉱物資源が、携帯電話やパソコン、家電、電子機器などの工業製品（または、廃棄された製品）の中に眠っています。

たとえば、1トンの携帯電話には150グラムの金が含まれています。それに対して、南アフリカの優秀な金鉱山で、1トンに含まれている金の量は5～8グラムです。つまり、日本にある携帯電話のヤマは、南アフリカの金鉱山よりも18～30倍も優秀な金鉱脈なのです。

もし、これら日本の都市鉱山に眠る金（6800トン）がすべてリサイクルされれば、世界の現有埋蔵量（42000トン）の約16%の金を取り出すことが出来ます。同様に、レアメタルのタンタルであれば10%、スズでは11%を取り出すことが出来るのです。（独立行政法人 物質・材料研究機構 [2008]）。



小川真吾著『ぼくらのアフリカに戦争がなくなるのはなぜ?』（2011, 合同出版）より引用



Photo: t.koshiba

「ともつな基金」事業 日本 (累計)

180人

大槌復興刺し子プロジェクトでは、これまで180名の刺し子さん(刺し子を活用した商品の制作にかかわる方)に、Tシャツやふきん、コースターなどの商品制作代金2,100万円以上をお支払いしました。

岩手県上閉伊郡大槌町において、日本に昔から伝わる手仕事の1つである「刺し子」を活用した商品の企画・制作・販売を行う、大槌復興刺し子プロジェクトを運営しています。

商品の制作にかかわる刺し子さんは、20代から80代までの幅広い年齢層に及び、その中心になっているのは、中高年の女性の方々です。商品の買取、材料の配布、商品化作業を行う「刺し子会」を毎週開催し、商品制作に必要な技術を学ぶ「技術講習会」、刺し子さん同士や、刺しさんと現地を

訪問された方々の交流の場としての「お茶っこの会」を随時開催しています。また商品は、インターネットや各地のイベント、店舗で販売しています。

テラ・ルネッサンスの活動理念である「私たちは一人ひとりに未来をつくる力があることを信じ、市民の可能性を追求しています」に基づき、東日本大震災から10年後の2021年までに、テラ・ルネッサンスから独立採算による別法人化を果たし、現地職員と地元住民による地域主体の運営を目指します。

オリジナル生地で商品制作

今年は、本格的な仕立てをした商品開発に新しくチャレンジしました。2014年3月11日に発売したSorakamo(ソラカモ)シリーズです。今までは裁断されている刺し子キットや、プリントをしたTシャツ、パーカーそのものに、刺し子を施していました。ミシンも使っていましたが、比較的簡単な作業でした。今年は、絵柄をデザイナーさんと一緒につくりだし、オリジナルの生地が完成。これを裁断し、刺し子をして、ミシンによる仕立てを行えば、様々な商品がつくりだせます。今回は、生地を組み合わせる複雑な縫製作業を行う名刺入れ、ブックカバー、そしてコースターの3商品を展開しました。それぞれの作業で、刺し子さんの思いが込められた商品です。まだまだ挑戦することはたくさんありますが、震災後、避難所で始まった当時では考えられないほど、自分たちで出来ることが増えました。現地に根づく産業となることを目指して、少しずつ前に進んでいます。



上: Sorakamo3 商品
下: 商品のクローズアップ

▶ 一年間の事業を振り返って

この1年間で、大きな変化がありました。雇用した地元大槌の非常勤職員3名は、生産の要となる「刺し子会」の運営、お客さまへの商品発送、ブログの更新など、日々重要な業務に取り組み、プロジェクトに欠かせない人材となっています。株式会社良品計画様と制作したコラボ商品は、全国の「無印良品」180店舗で販売されました。また新しくTシャツ、Sorakamoシリーズ等を発売して、たくさんの方々にお届けできました。商品はインターネットでの販売の他、様々な店舗でお取り扱いいただき、夏には日本最大級の野外イベント「フジロック・フェスティバル」にも出店しました。初期からいらっしゃる刺し子さんは、「もう刺し子も3年になるのね。本当に早いもんだね〜。始めは商品も色々な出来だったけど、みんな、がんばって上手になったよね」としみじみおっしゃっています。3年目を振り返ると、たくさんの方々が、それぞれの立場で力を発揮して、ここまで来ることができたのだと実感します。



日本 岩手事務所 所長
鈴鹿 達二郎

1 大槌復興刺し子プロジェクト

事業の目的	刺し子商品を企画・販売し、東日本大震災で被災された方々への商品制作代金の支払いを通じて、生活再建を促進する。また、商品制作にあたり技術講習会などを通じ、被災された方々の相互交流を活性化させ、心理的社会的負担の軽減を図る。 継続的な「刺し子」による手仕事の提供、地元人材の雇用創出、及び事業を通じた訪問客等による地域活性化への貢献のため、東日本大震災から10年後の2021年までに、NPO法人テラ・ルネッサンスから、独立採算による別法人化を果たし、現地職員と地元住民による運営を目指す。		
事業地域	日本	受益者数(累計)	180名
受益者カテゴリー	東日本大震災の被災地域の女性	事業実施期間	2011年6月～継続中



プロジェクト成果

2011年に発生した東日本大震災による被害を受けた岩手県上閉伊郡大槌町を中心として、これまでに主に中高年の女性180名に、技術指導講習会を行い、「刺し子」という手仕事の技術を使った商品を作成していただきました。これにより制作した「刺し子」を累計21,743,600円で買い取り、作り手の生活再建の一助となりました。現金収入以外でも、毎週2日間開催する「刺し子会」では、作り手の女性たちが集まり、交流の場、またお互いの技術を向上する場となっています。商品を作成すること、また「刺し子会」による交流により、作り手の方々の生き甲斐が生まれてきています。2013年度の商品販売枚数は33,266枚、売上は29,523,964円となり、今後独立して運営するための運営基盤の強化を行っています。また、非常勤職員として、地元住民3名の雇用を創出しています。



■ ディズニーランド卒業生 × テラ・ルネッサンス主催 ディズニーランドツアー

『ディズニーランドであった心温まる物語』（発行：株式会社あさ出版 著：東京ディズニーランド卒業生有志 監修：香取貴信）の印税をご寄付いただき、刺し子さんのお子さん、お孫さん、合計24名をディズニーランドに招待しました。
 この企画は、「自分たちを育ててくれたディズニーランドへ、東日本大震災でつらい想いをした子どもたちを招待したい」という香取貴信さんの想いを当会が現地に繋ぎ、実現の運びとなりました。

■ 大槌情報共有会

2012年度より、イベントや活動のダブルブッキングなどを解消するために当会主催で始めた情報共有会は、現在は大槌町の団体が情報共有をする場として定着しました。月2回の開催で、各回5～15名が参加しています。
 2013年4月からは、団体の連携による子どもの遊びを支援するプロジェクトが発足し、定期的にイベントを開催するとともに、2013年12月より、大槌町内で活動する団体、大学のリストを協働で制作しています。





啓発事業 日本 (累計)

13,709人

めぐるプロジェクト及びキフ★ブックへの参加者617名、本やウガンダコーヒーといったテラ・ルネッサンス関連商品の購入者260名、カンボジアスタディツアーへの参加者10名、講演会への参加者12,800名のほか、22名をボランティア、インターンとして受け入れました。

現場での支援はもとより、現場で起こっている問題の根本的な解決を目指すテラ・ルネッサンスでは、一人でも多くの方に、テラ・ルネッサンスが取り組む課題、そしてその課題解決に向けた取り組みを知っていただくため、日本国内での啓発活動に取り組んでいます。

書き損じハガキや使用済みインクカートリッジ、不要になった携帯電話、古本を集めて支援する、めぐるプロジェクトやキフ★ブック、フクサボ

への参加呼びかけを行うとともに、書籍、講演DVD、活動内容を視覚的に見ることができるマンガ、ウガンダコーヒーの販売も行っています。五感で現地をフルに感じるスタディツアーを開催し、イベントや活動報告会では活動内容の紹介を行い、講演会の講師として日本各地を訪れています。

また、啓発活動を行う上で重要な平和の担い手を育成するため、人材育成(ボランティア、インターンの受け入れ)も行っています。

ラオスのクラスター爆弾啓発用漫画冊子の作成

ラオスでの不発弾の問題は、まだ問題として認識されているとは言えません。気軽に読めて、問題や状況をイメージしやすいようにクラスター爆弾啓発用冊子を漫画で作成するために、漫画家の西原大太郎さんとシエンクアン県に現地取材に行き、デザイナーの小田起世和さんとともに冊子を作成しました。驚いたことにベトナム戦争で世界一の爆撃をラオスにしたアメリカの人たちでさえ、ラオスがどこにあるのか、ラオスに残る不発弾の問題を知らません。

(秘密の戦争として報道されてきませんでした)今回作成した日本語版の他、クラスター爆弾を落とした国であるアメリカや、今欧米で大人気となっているラオスの観光地を訪れる欧米人観光客にも気軽に読んでもらえるように英語版、そして実際の被害に遭っている危険性をよく知らないシエンクアン県の子どもたちへの不発弾回避教育用のグッズとしてラオス語版も作成していきます。この冊子を多くの人たちに読んでもらうことで新しい時流を造っていければと思います。



啓発事業のプロジェクト概要と成果

	キフ★ブック	めぐるプロジェクト	フクサボ
	身近な国際協力をテーマに、古本やCDを集めることで、誰にでも参加できる国際協力を提示し、関心を集めるとともに資金を調達する。 参加者数 247名・団体	身近な国際協力をテーマに、書き損じハガキ、使用済みインクカートリッジ・携帯電話を集めることで、誰にでも参加できる国際協力を提示する。 参加者数 370名・団体	身近な国際協力をテーマに、古着を集めることで、誰にでも参加できる国際協力を提示し、関心を集めるとともに資金を調達する。 参加者数 のべ143名
	講演イベント	スタディツアー	人材育成
	講演やイベントへの参加を通して、取り組む課題、活動への関心を集める。 参加者数 12800名	地雷の問題について様々な角度から学習をし、現地での体験を様々な形で伝える人材を育成する。 参加者数 10名	大学生や社会人を主な対象として、次世代の平和の担い手となる人材を育成する。 参加者数 のべ22人(2013年度)
	物品	募金箱	パネル
	書籍やコーヒーなどの商品の購入を通じて、テラ・ルネッサンスが取り組む課題、活動への理解を促し、関心を集める。 購入者数 260名・団体	お店や企業内での募金箱の設置を通して、活動の啓発を行うとともに、活動を行うための資金を調達する。 参加者数 21団体 214,714円	子ども兵や地雷の写真パネルを通じて、取り組む課題、活動への関心を集める。 貸し出し 7団体

講演実績

企業	株式会社デミック 株式会社TBSテレビ 株式会社黒川クリーニング社 株式会社良品計画 株式会社オンホールディングス トヨタ部品群馬共販株式会社 株式会社ゲットイット みずほ総合研究所 銚子商工信用組合 オムロン株式会社 株式会社EM生活 近畿労働金庫 医療法人社団恵心会京都武田病院 ブルデンシャル生命保険株式会社
教育機関	愛知県私立幼稚園連盟 学校法人牧原学園あさひ幼稚園 同志社国際学院初等部 京都市立伏見住吉小学校 愛知県私立幼稚園連盟 PTA 天白支部 京都市立朱雀中学校 印西市立小林中学校 京都市立西陵中学校 京都市立向島東中学校 寒川町立寒川中学校 枚方市立長尾西中学校 徳島市国府中学校 吹田市立豊津西中学校 坂井市立春江中学校 宇治市立西小倉中学校 高山市立中山中学校 橿原市立大成中学校 京都産業大学附属高等学校 立命館宇治高等学校 和歌山県立橋本高等学校 大阪府立福井高等学校 大阪府立佐野高等学校 大阪暁光高等学校 京都府立東稜高等学校 西大和学園高等学校 京都女子大学 熊本県立大学 奈良県立大学 早稲田大学オープン教育センター 神戸市外国語大学 立命館大学 横浜市立大学 龍谷大学
行政	弘前市役所 熊本市人事課人材センター 長崎県市町職員研修センター 京都府職員研修・研究支援センター 沖縄県自治研修所 熊本県総務部人事課人材研修室 大分市総務部職員厚生課 草津市人権政策課 むつ市役所
団体	沖縄経済同友会 千葉県中小企業家同友会八千代支部 てだこ倫理法人会 うるま市倫理法人会 市川中央倫理法人会 船橋市中央倫理法人会 鹿嶋市準倫理法人会 那覇新都心倫理法人会 千葉市中央区倫理法人会 木更津市倫理法人会 千葉市稲毛区倫理法人会 銚子市倫理法人会 特定非営利活動法人はたらく場研究所 特定非営利活動法人いい会社をふやしましょう 特定非営利活動法人アイセック・ジャパン京都大学委員会 特定非営利活動法人チャイルドライン京都 特定非営利活動法人だっぴ 特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 特定非営利活動法人ユースビジョン 公益社団法人青年海外協力協会 公益社団法人青年海外協力協会近畿支部 公益財団法人新日本宗教団体連合会 公益財団法人信頼資本財団 公益財団法人京都SKYセンター 公益社団法人目黒法人会 公益財団法人あいちコミュニティ財団 一般社団法人八日市場青年会議所 一般社団法人ジャムピカソ 一般社団法人花巻観光協会 社会福祉法人合掌苑 九州IT&ITS利活用推進協議会 高知県経営品質協議会 京都グローバルワイズメンズクラブ 鬼澤塾 成田ロータリークラブ 木更津西ロータリークラブ 京都朱雀ロータリークラブ 大阪地球村 IDPC アフリカンフェスティバル実行委員会 希望の光実行委員会 市民社会フォーラム 経営実践研究会 児童労働ネットワーク（アフリカ開発会議公式サイドイベント）ベンチャービジネス協議会 JAL 鵬友会 立正佼成会前橋教会 京都流議定書実行委員会 京都経営品質協議会 心ゆたかな大阪実践塾 うなづき症候群対策ネットワーク 橿原市PTA連合会人権教育推進委員会 テラ・ルネッサンス千葉 大学ボランティアセンター連絡協議会 地球をごきげんに！ ジャパンマリンユナイテッド横浜労働組合 大阪女学院大学ボランティアセンター設立グループ 幸せエコ名刺ユーザー交流会 ウガンダドリブラ実行委員会 佐賀県庁アフターファイブ・イノベーション EXEX 会

メディア掲載 (重複を除く)

読売新聞 日本事務機新聞 毎日新聞 高齢者住宅新聞 産経新聞 河北新報 岩手めんこいテレビ
信濃毎日新聞 長崎新聞 福井新聞 The Japan Times 東京新聞 岐阜新聞 朝日新聞
NHK BS プレミアム「きらり！えん旅」 ソトコト テレビ東京 ワールドビジネスサテライト

主催イベント

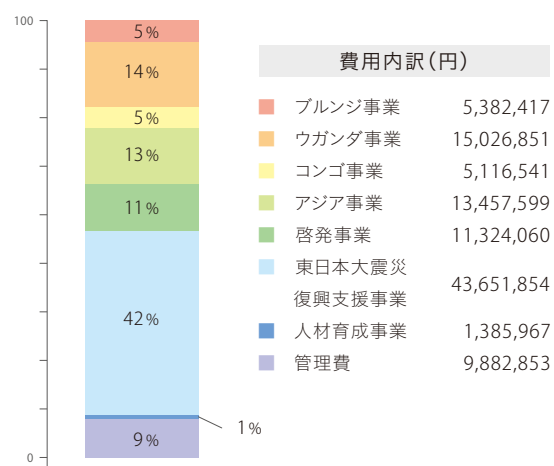
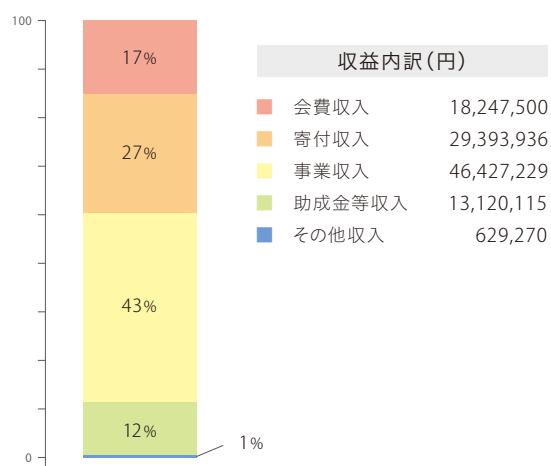
2013. 4.10 (水)	テラ・スタイル東京	～“創設者 鬼丸昌也が語る”テラ・ルネッサンスの現在、過去、未来～
2013. 4.10 (水)	第23回テラ・カフェ	コンゴの過去と現在 ～「忘れられた戦争」と呼ばれないためには～
2013. 4.19 (金)	鬼丸昌也と行く「大槌刺し子」と「復興」への槌(つち) 音に触れる旅	
～ 21 (日)		
2013. 5.08 (水)	テラ・スタイル東京	
2013. 5.08 (水)	第24回テラ・カフェ	カンボジアスタディツアー報告会
2013. 6.12 (水)	テラ・スタイル東京	ウガンダ事務所職員・トシャ・マギーによる講演
2013. 6.12 (水)	第25回テラ・カフェ	ラオスの過去、現在、そして未来 ～不発弾とともに生きる人々 ラオス・シエンクアン県から～
2013. 7.10 (水)	テラ・スタイル東京	
2013. 7.10 (水)	第26回テラ・カフェ	「ウガンダ元子ども兵の希望への歩み」～ペーパービーズ作りを通して～
2013. 8.07 (水)	第27回テラ・カフェ	テラ・ルネッサンスの協働事例 ～NPO編「ファーストステップ・ジョブ・グループ」～
2013. 9.11 (水)	テラ・スタイル東京	
2013. 9.11 (水)	第28回テラ・カフェ	私たちが知らなかったウガンダ～ウガンダ視察報告会～
2013.10.09 (水)	テラ・スタイル東京	
2013.10.09 (水)	第29回テラ・カフェ	テラ・ルネッサンスの資金はどこから？
2013.11.13 (水)	テラ・スタイル東京	
2013.11.13 (水)	第30回テラ・カフェ	京都で考える東北 ～テラ・ルネッサンスの震災復興支援について～
2013.12.11 (水)	テラ・スタイル東京	
2013.12.11 (水)	第31回テラ・カフェ	テラ・ルネッサンスの広報力 ～海外ウェブサイトを通して広がる世界～
2013.12.23 (月)	STEP TO THE FUTURE	～ラオスと私がつながる日～
2014. 1.08 (水)	テラ・スタイル東京	
2014. 1.08 (水)	第32回テラ・カフェ	こうして私も世界を変えるために一歩を踏み出した ～インターンを通して学んだこと～
2014. 2.12 (水)	テラ・スタイル東京	
2014. 2.12 (水)	第33回テラ・カフェ	テラ・ルネッサンスらしい支援とその成果 ～ウガンダ事業8年間の歩み～
2014. 3.12 (水)	テラ・スタイル東京	
2014. 3.12 (水)	第34回テラ・カフェ	インクやハガキが集まって、『未来をつくる力』になる

各種主催イベントへの参加

2013. 5.11 (土), 12 (日)	アフリカンフェスタ (外務省)
2013. 6.01 (土)	アフリカンフェスティバル in Kyoto (JICA 関西)
2013. 6.02 (日)	アフリカ開発会議 (TICADV) サイドイベント (児童労働ネットワーク)
2013. 6.08 (土)	がんばらないチャリティバドミントン大会
2013. 7.20 (土)	京都流議定書 (京都流議定書イベント実行委員会)
2013. 9.15 (日)	国際協カステーション (JICA 関西、(公財) 京都府国際センター)
2013.10.05 (土), 06 (日)	グローバルフェスタ (国際協力 NGO センター JANIC)
2013.10.14 (月), 19 (土)	清水寺で世界を語る ～ともに生きる国際協力～
2013.11.03 (日)	京都ヒューマンフェスタ (京都府)
2013.11.17 (日)	アジアフェスティバル (関西あおぞらプロジェクト)
2013.11.30 (土)	ドリームプランプレゼンテーション in ウガンダ大阪報告会
2013.12.21 (土)	ドリームプランプレゼンテーション in ウガンダ東京報告会
2014. 2.01 (土), 02 (日)	ワンワールドフェスティバル (ワンワールドフェスティバル実行委員会)
2014. 2.09 (日)	Ecology × International ～えこいん話～ (京都エコロジーセンター)
2014. 3.13 (土)	京町屋でフェアトレード

2013年度収支計算書並びに2014年度収支予算書 (単位:円)

I 経常収入の部		2013年度 予算	2013年度 決算	2014年度 予算	
1. 会費収入		15,411,000	18,247,500	21,247,000	
2. 寄付収入	一般寄付	14,911,000	14,004,531	18,004,000	
	アジア事業指定寄付	2,905,000	3,326,319	8,326,000	
	アフリカ事業指定寄付	8,657,000	7,821,837	12,821,000	
	ともつな基金寄付	1,571,000	4,241,249	4,241,000	
	寄付合計	28,044,000	29,393,936	43,392,000	
3. 事業収入	啓発事業収入	13,944,000	15,312,784	15,312,000	
	物品販売収入	26,400,000	29,523,964	29,523,000	
	アフリカ事業収入	-	38,000	38,000	
	アジア事業収入	-	173,000	173,000	
	管理部門収入	-	1,379,481	1,379,000	
	事業収入合計	40,344,000	46,427,229	46,425,000	
4. 補助金等収入		6,665,000	13,120,115	13,120,000	
5. その他収入		519,000	629,270	629,000	
経常収益合計		90,983,000	107,818,050	124,813,000	
II 経常費用の部					
1. 事業部門	国内事業費	啓発事業	8,588,000	11,324,060	12,734,000
		東日本大震災復興支援事業	39,217,000	43,651,854	43,651,000
		人材育成事業	4,290,000	1,385,967	1,385,000
		国内事業費計	52,095,000	56,361,881	57,770,000
	海外事業費	ウガンダ事業	14,747,000	15,026,851	15,266,000
		コンゴ事業	7,580,000	5,116,541	5,116,000
		ブルンジ事業	-	5,382,417	5,382,000
		アジア事業	14,704,000	13,457,599	30,819,000
		海外事業費計	37,031,000	38,983,408	56,583,000
		事業部門合計	89,126,000	95,345,289	114,353,000
2. 管理部門	人件費	4,827,000	4,518,642	4,517,000	
	その他経費	7,937,200	5,364,211	5,611,000	
	管理部門合計	12,764,200	9,882,853	10,128,000	
経常費用合計		101,890,200	105,228,142	124,481,000	
当期経常増減額		▲10,907,200	2,589,908	332,000	



監査報告書

国際協力事業費明細 (単位:円)

ウガンダ事業		
BHN支援活動費	食費、医療費、家賃支援費など	5,861,202
能力向上支援活動費	職業訓練における教材費、指導員人件費など	4,310,738
心理社会支援活動費	ワークショップ開催経費、カウンセリングなど	1,610,348
収入向上支援活動費	教材費、小規模ビジネス指導など	1,796,237
不法小型武器啓発事業費	セミナー開催経費など	307,365
ウガンダ啓発事業費	視察に関する渡航費用など	1,140,961
合計		15,026,851
アジア事業		
カンボジア 地雷埋設地域村落開発支援事業費	■ 収入向上活動/プレア・ブット村 裁縫技術訓練費、 伝統衣装製作訓練費、養豚支援費など	5,724,078
	■ 社会保障制度支援活動/ モニタリング調査費、人件費など	252,342
	■ 基礎教育支援活動/ロカブツ村 図書室設置費、教員用宿舎 建設費、貯水タンク建設費、プレア・ブット村 貯水タンク建設費など	1,876,080
カンボジア地雷撤去活動費	機械チームの運営費1年分	804,437
カンボジア小中学校建設費	図書館の司書、幼稚園の教員への給与や水ろ過器の購入費など	3,353,603
カンボジア伝統音楽復興&継承事業費	伝統音楽の演奏会の開催費、伝統音楽の講師への謝礼など	276,727
カンボジア啓発事業費	カンボジアスタディツアーに関する交通費など	513,295
ラオス不発弾撤去支援	水道建設用地の不発弾撤去費、不発弾撤去のモニタリング調査時の費用など	411,256
ラオス被害者支援費	モニタリング調査時の費用など	245,781
合計		13,457,599
コンゴ事業		
食料の安全保障支援活動	■ 自給食糧を確保するための活動/ 食料物資購入費、種子購入費、農器具購入費、物資運搬費など	1,393,829
収入向上支援活動	■ 収入源を確保するための活動/職業訓練講師謝礼、 職業訓練材料費、小規模店建設資材購入費、資機材運搬費など	2,272,002
心理社会支援活動	■ 心理社会的な安定を促す活動/カウンセリング担当者人件費、 スタッフ移動のための交通費など	1,245,447
子どもの保護支援活動	■ 子どもの権利を守るための活動/ 基礎教育担当スタッフの移動費など	143,346
健康を維持するための活動費	BHN支援活動にて活用するパソコンに係る費用	61,917
合計		5,116,541
ブルンジ事業		
ブルンジにおける元子ども兵及び 紛争被害者自立支援センター 住民参加型建設プロジェクト	元子ども兵及び紛争被害者の 自立支援を行うための施設建設費	5,228,574
ブルンジ共和国洪水被害者に対する 緊急支援活動	洪水被災者に対する金支援物資購入費用など	153,843
合計		5,382,417

計算書類に対する注記

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準委員会）によっております。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

海外におけるPJの有形固定資産について、見積耐用年数を用い、残存価額0とした定額法により償却しております。

日本国内における有形固定資産については法人税法に規定する定率法、

100,000円以上200,000円未満の資産については3年一括償却によっております。

(2) 消費税等の会計処理

税込経理によっております。

2. 事業別損益の状況

別紙参照

3. 固定資産の増減内訳

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物	5,559,471			5,559,471	1,312,648	4,246,823
車両運搬具	10,549,588	1,738,512	594,776	11,693,324	8,800,721	2,892,603
什器備品	686,844	822,336		1,509,180	743,099	766,081
土地	444,234			444,234		444,234
投資その他の資産						
敷金	490,000			490,000		490,000
合計	17,730,137	2,560,848	594,776	19,696,209	10,856,468	8,839,741

2. 事業別損益の状況
事業別損益の状況は以下の通りです。

	啓発事業	東北支援事業	人材育成事業	ウガンダ事業	コンゴ事業	ブルンジ事業	アジア事業	事業部門計	管理部門	合計
1 受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	18,247,500	18,247,500
2 受取寄付金	0	4,241,249	0	0	2,914,840	53,000	3,326,319	15,389,405	14,004,531	29,393,936
3 受取助成金等	0	3,910,320	0	0	2,183,138	4,413,381	396,347	13,120,115	0	13,120,115
4 事業収益	15,312,784	29,523,964	0	0	0	0	173,000	45,047,748	1,379,481	46,427,229
5 その他収益	114	1,851	0	0	0	0	2,107	4,072	650	4,722
(1)受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)雑収益	114	1,851	0	0	0	0	2,107	4,072	650	4,722
経常収益計	15,312,898	37,677,384	0	7,108,926	5,097,978	4,466,381	3,898,899	73,562,466	623,422	624,548
1 事業費	3,039,137	10,116,804	349,728	2,449,799	2,154,340	547,324	6,669,769	25,326,901	3,772,641	29,099,542
(1)人件費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当	0	2,281,078	66,000	0	0	0	0	2,347,078	0	2,347,078
役員報酬	0	1,800,674	82,483	129,087	129,087	129,087	515,523	3,502,723	663,998	4,166,721
雑給	716,782	1,800,674	220,089	356,921	77,593	5,063	24,688	787,439	82,003	869,442
法定福利費	28,117	74,968	718,300	2,935,807	2,361,020	681,474	7,209,980	31,964,141	4,518,642	36,482,783
福利厚生費	3,784,036	14,273,524	0	0	0	0	0	15,945,427	0	15,945,427
人件費計	1,683,028	14,262,399	0	440,633	125,304	48,269	277,815	1,956,527	395,689	2,352,216
(2)その他経費	268,024	765,640	30,842	33,865	25,495	12,457	50,018	368,631	67,904	436,535
売上原価	69,171	169,666	7,959	206,974	38,663	100	6,900	841,974	39,229	881,203
通信費	266,697	322,576	3,007	4,706	4,706	4,706	36,320	397,599	28,431	426,030
運送費	26,134	318,020	0	4,706	4,706	4,706	1,372,135	14,494,920	1,411,257	15,906,177
荷造り費	1,288,647	3,687,808	415,004	6,528,332	1,052,406	150,588	1,372,135	14,494,920	1,411,257	15,906,177
水道光熱費	34,855	201,467	4,011	6,277	6,277	6,277	25,068	284,232	33,049	317,281
旅費交通費	37,105	333,808	4,270	6,682	6,682	6,682	39,889	435,118	37,746	472,864
広告宣伝費	196,641	31,941	1,358	66,315	26,376	2,125	8,489	333,245	27,237	360,482
広告知覧費	8,900	21,833	1,024	3,164,713	160,195	13,804	2,212,680	9,735,738	101,730	9,746,507
会議費	129,569	545,534	8,820	72,857	66,282	40,988	64,371	901,237	10,764	912,001
支務用消耗品費	29,550	471,747	3,376	138,385	40,988	5,284	46,106	735,436	45,011	780,447
事務用消耗品費	40,663	137,168	4,679	7,323	7,323	7,323	48,320	252,799	42,689	295,488
備品消耗品費	498,984	673,376	30,143	65,490	47,174	47,174	198,491	560,832	247,774	808,606
新聞図書費	0	107,100	0	220,106	2,901	0	2,607	332,714	40,117	372,831
印刷費	345,034	1,691,407	36,660	65,219	57,372	57,372	359,936	2,613,000	968,637	3,581,637
修繕費	143,097	627,543	22,766	96,260	25,770	25,770	383,965	1,325,171	302,730	1,627,901
地代	14,323	47,135	1,648	38,186	2,579	2,579	22,610	129,060	18,762	147,822
保険料	1,145	2,810	131	6,635	206	206	824	11,957	2,234	14,191
家賃	65,710	1,295,193	0	389,388	0	0	0	1,360,903	0	1,360,903
ボイラー活動諸経費	1,570,000	65,972	0	124,186	86,320	56,874	105,844	2,131,204	100,446	2,231,650
販売促進費	315,805	1,169,264	36,341	124,186	86,320	56,874	349,654	2,138,444	305,344	2,443,788
租税公課	41,708	102,304	4,799	7,511	7,511	7,511	29,997	201,341	38,641	239,982
支払報酬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リース	172,304	438,172	19,827	31,030	31,030	31,030	123,924	847,317	159,619	1,006,936
材料	244,289	577,363	25,341	52,682	39,659	39,659	158,481	1,137,474	531,672	1,669,146
燃料	43,876	1,252,577	5,049	304,949	893,444	7,902	319,748	2,827,545	40,642	2,868,187
減価償却費	4,765	24,213	548	12,340	858	858	3,427	47,009	7,305	54,314
雑損失	0	34,294	0	0	0	0	0	34,294	359,552	393,846
その他経費計	7,540,024	29,378,330	667,667	12,091,044	2,755,521	4,700,943	6,247,619	63,381,148	5,364,211	68,745,359
経常費用計	11,324,060	43,651,854	1,385,967	15,026,851	5,116,541	5,382,417	13,457,599	95,345,289	9,882,853	105,228,142
当期経常増減額	3,988,838	5,974,470	1,385,967	7,917,925	18,563	916,036	9,558,700	21,782,823	24,372,731	2,589,908

みなさまへのお知らせ

認定NPO法人になりました。

テラ・ルネッサンスは平成26年5月30日より、京都府から認定を受けた認定NPO法人となりました。認定NPO法人とは「広く一般から支持を受けているか」、「その活動や組織運営が適正に行われているか」「より多くの情報公開が行われているか」等の一定の要件を満たした、団体にのみ、所轄庁から認定を受ける法人をいいます。テラ・ルネッサンスは京都府では5番目の認定NPO法人となりました。当会へのご寄付は、寄付金控除などの税務上の優遇措置の対象となります(所得税、法人税、相続税)。これからも皆様の思いとともに、スタッフ一同力を合わせて、活動を続けて参ります。

認定NPO法人テラ・ルネッサンスを、今後ともよろしく願います。

認定NPO法人テラ・ルネッサンス 理事長 小川真吾



〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堺町21番地 jimukinoueda bldg. 403号室

TEL/FAX : 075-741-8786 E-mail : contact@terra-r.jp

HP : www.terra-r.jp Facebook : [terra.ngo](https://www.facebook.com/terra.ngo) Twitter : [@terra_ngo](https://twitter.com/terra_ngo)